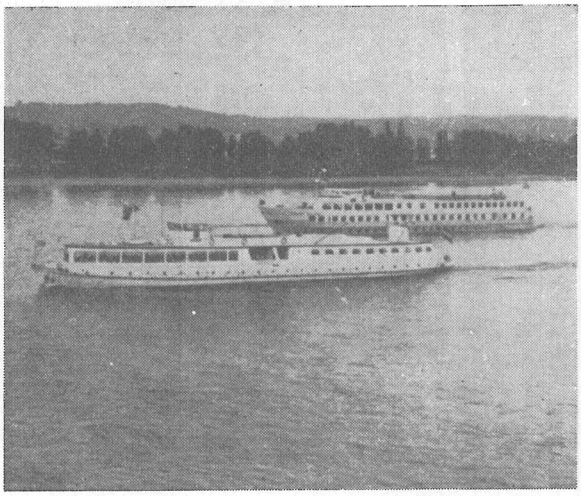
ドイツ視察記（第一回）

伊藤一男

この度、NHKの後援により、訪独代表団の一員として約一ケ月間にわたり、フランス（パリ）、ドイツ各地を見てまいりました。出発に際しましては、町当局をはじめ、数多くの方々からの激励を頂きまして、心より感謝申し上げます。とりとめのない文章ですが、旅行中の体験の一端を綴りまして皆様への御報告にかえたいと思います。



ライン河を下る観光船

――北極を越えて――

七月十三日、真夏の日本を脱出し、一路パリへと飛び立った。北回りなので約十九時間程の空旅である。途中、給油のためアラスカ（アンカレッヂ）に着陸、機外に出るとやはりアラスカである。背広一枚では寒すぎる位で、待合室の売店では驚いた。「免税品はこちらです」なんて日本語で書かれた看板がやたらと多く東京のデパートみたいな気がした。やはり毛皮製品が多いようである。

機は再び北へと飛び続け、アラスカから北極へとはいる。海は氷で閉ざされ、氷河がみどり色の帯となって、血管のように見えている。十九時間というもの夜は訪ずれず、いつも真昼のように太陽は輝き五回ほど出る機内食は時差の関係で朝食、昼食だけである。

イギリスのマンチェスター上空で機は大さく旋回し、パリ空港へと向った。

――パリ祭前夜――

現地時間の夜八時にパリのオルリー空港へついた。パリの八時はまだ明るく。吾々一行はセーヌ河右岸の共和国広場に面したホテルに宿舎をとり、早速地下鉄でモンマルトルの丘まで出かけてみた。パリ特有の石ダタミの坂道をサクレクール寺院めざして登る道は何回も曲折して中腹までくると、パリの夜景が大きくひろがった。パリ祭の前夜なので、市民は丘へ丘へと集ってくる。「パアーン」と大きな音のする花火を投げあい、酒を飲んでは大きな声で唄ったりしている。このパリ祭というのは、一七八九年七月十四日のバスチーエ蜂起をたたえる革命記念日である。サンピエールという頂上の広場には、市民や観光客があふれ、底ぬけに明るい。ヒッピーの男女が抱きあいながら皮袋の中の酒をまきちらしていたり、バイキングの軍服を着て踊る老人がいたり、こんな近くで外人をみるのは初めてなので、みんな目を白黒させている。寺院裏手のテルトルという一角には似顔絵描きや、辻音楽士がたむろし、日本人も何人かアルバイトしていた。話かけてみると留学生とのこと。「物価高なので稼がないと留学できない」といって笑っていた。

翌日、人々のざわめきで眼を醒まし街にでると人波が延々と続き、その中を戦車や兵隊によるパレードが行おれており、バンドーム広場ではナポレオンが、オーステルリッツの戦いで得た大砲一二〇〇門で鋳造したといわれる高さ四十四メートルもあるナポレオンの塔を市民が取りかこみ全市をあげて革命記念日を祝っていた。「リッツ」という日本人の経営する店で買物をして、午後からは市内の観光めぐりを楽しんだ。ノートルダム、マドレーヌなどの教会や寺院、ルーブル、クリュニなどの博物館や美術館あるいはベルサイユ宮殿、凱旋門とかけ足で見てあるいた。オペラ座やシャンゼリゼー通りなどは時間がなくてバスの中から見物し、わずか四時間たらずでパリ市内を見物したのでみんなクタクタに疲れてしまい、エッフエル塔に着くころは眠りこむ者もでる程だった。パリを一巡しての感想は、とにかく絵ハガキは嘘が多いということ、録は多いが市内はゴテゴテとしていて東京の下町とあまり変らない。それに物が高すぎる。パリの一日でみんな手持ドルの三分の一を使い果してしまった。

日本円を両替すると一万円が約一五〇フラン位で買物をすると七〇〇〇円位の物しか買えないパリでは飲み水にも苦労した水道はあるのだが、混入物（鉱物）が入っているので飲めず、レストランなどで「ミネラル、ウオーター」を買うしかない。パリ滞在はわずか一日半、パリ祭の夜十一時三十分、パリ駅より汽車でドイツに向って出発した。

自衛官募集

自衛隊では、陸海空自衛官を募集しています。十八才以上二十五才までの日本人男子なら誰でも応募でき、希望する月に入隊できます。

詳細は役場総務課へ

有権者数 八千七百二十人

―選管発表―

町選挙管理委員会から、九月一日現在の選挙人名簿に登録されている有権者数の発表がありました。

それによると有権者総数八千七百二十人のうち女性の有権者が四千六百四十一人と全有権者数の五十三パーセントをしめております。

尚、地区別有権者数は別表の通りです。

選挙人名簿登録者数

投票区＼男女別	男	女	計
第一投票区	874	979	1,853
第二投票区	1,036	1,189	2,225
第三投票区	1,208	1,409	2,617
第四投票区	413	458	871
第五投票区	548	606	1,154
合計	4,079	4,641	8,720